

ねっとわあく

195

MARCH

長野県生活協同組合連合会

ねっとわあく 195 2008年3月1日 発行責任者：米原 俊夫



食堂・売店部会では、2月12日(火)~13日(水)に首都圏の大学生協・職域生協を合同で訪問し視察研修を行いました。(関連記事8P)

CONTENTS

中国産餃子中毒事故に関するお詫びとご報告.....	2
機関関係活動報告 2008年賀詞交歓会.....	3
トップが語るわが生協：長野県高齢者生活協同組合 依田 秀夫 理事長 「長野県高齢者生協はこうして生まれました」	4
機関会議報告	
第13回定例理事会.....	6
部会等活動報告	
介護福祉部会・介護福祉交流会.....	7
医療部会：接遇改善研修会.....	7
大学部会：新春学習交流会.....	7
第4回長野県生協災害対策検討委員会... ..	8
医療部会：第2回医療部会.....	8
食堂・売店部会：合同視察研修会.....	8
食堂・売店部会：第3回食堂売店部会... ..	9
その他報告	
県主催：生協法改正に伴う生協担当者会議... ..	9
消団連関連報告	
県消団連：第6回・第7回幹事会.....	10
県消団連：BSE全頭検査継続問題に 関わる意見交換会.....	10
Information.....	10

CO・OP手作り餃子等に関するお詫びとご説明

長野県生活協同組合連合会

会長理事 米原俊夫

「CO・OP手作り餃子」をお召し上がりになった皆さまに重篤な健康被害が発生した事故をはじめとした問題で、生協組合員・多くの消費者の皆さま・関係各位に、多大なるご迷惑とご心配をおかけしておりますことにつきまして深くお詫び申し上げます。

日本生協連がジェイティフーズ株式会社に製造を委託し、中国の天洋食品が製造した当該冷凍食品から千葉県ではメタミドホスが検出され、福島県の同商品からもジクロルボス（いずれも有機リン系殺虫剤）が検出されました。原因につきましては、関係官庁を含め引き続き調査中です。

長野県内におきましては、生活協同組合コープながのが共同購入や店舗で販売した「CO・OP手作り餃子」をはじめとする下記の商品について、組合員の皆さまへのお詫び・お知らせ及び家庭内在庫の回収を実施しております。なお、回収させていただいた当該商品からメタミドホスが極微量検出されました。また、コープながの以外の県生協連会員生協では、該当商品の製造者である天洋食品（中国河北省）で製造した商品は取り扱っていませんでした。



県生協連では、1月31日にコープながのと共に長野県食品・生活衛生課、生活文化課、長野市保健所へ伺い、この間の経過・状況及び対応について報告しました。コープながのにおいても、この間長野県衛生部や県警察、マスコミ各社などへの速やかな情報提供に努めております。

県生協連としては、引き続き会員生協及び関係者の皆さまへの情報提供に努めてまいります。何卒、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

【回収対象商品】

CO・OP手作り餃子 40個入（560g）（JAN：4902220526208）

CO・OPとろ～り煮込んだロールキャベツ 2個×2袋（JAN：4902220510368）

CO・OPビーフカレー甘口210g（JAN:4902220300495）

賞味期限が2008.11.29～2009.11.12、製造年月日が2006.11.30～2007.11.13の間の日付のもの

CO・OPビーフカレー中辛210g（JAN：4902220300488）

賞味期限が2008.12.1～2009.11.13、製造年月日が2006.12.2～2007.11.14の間の日付のもの

CO・OPビーフカレー辛口210g（JAN：4902220300471）

賞味期限が2008.11.28～2009.11.8、製造年月日が2006.11.29～2007.11.9の間の日付のもの

べこ政宗炭火焼 牛たん しお90g

味の素 カルビクッパ（ぞうすい）150g

ニッキーフーズ 厚切りチャーシューと野菜の紙包み120g×2

2008年賀詞交歓会を開催しました



宮澤敏文県議会副議長



J A 長野中央会矢澤利夫専務

1月18日(金)、ホテルメトロポリタン長野(長野市)において、「2008年賀詞交歓会」を開催しました。会員生協が一堂に会して新春を慶び合うと共に、会員相互や関係する各界からお招きした来賓との交流を深めることを目的に行ったもので、昨年に引き続き2年目となります。

米原俊夫会長が主催者挨拶を行った後、来賓の宮澤敏文県議会副議長、J A 長野中央会の矢澤利夫専務理事からご挨拶をいただき、長野県虹の会の塚田俊之代表世話人(株みすずコーポレーション会長)に乾杯の発声を行っていただいで歓談に移りました。

県議会議員、衆参国会議員の秘書や事務局長、農水省長野農政事務所の高田消費・安全部長、長野県消団連の北條会長、J A 全農長野の鹿田副本部長、長野県ボランティア地域活動センター美谷島所長など、大勢の来賓にご参加いただいたほか、長野県・生活環境部長、日本生協連・中央地連事務局長をはじめ国会議員・県会議員の皆様からの祝電・メッセージをご披露しました。

開会初日の国会終了後に駆けつけてくださった篠原孝衆議院議員からもご挨拶を頂戴し、最後に県労福協の近藤光理事長(連合長野会長)に中締めを行っていただきました。

県労福協や県消団連、関係団体の長野県虹の会(全国コープ商品製造業者長野県の会)各社からの参加者、会員生協の役職員を合わせた74名が和やかに交流を深め、大変有意義な賀詞交歓会となりました。



長野県高齢者生協はこうして生まれました

長野県高齢者生活協同組合 依田 発夫 理事長

わが国人口の高齢化が進行する中、1980年代政府は「高齢社会危機」論なるものを国民に喧伝し、90年代になるとそれを理由に社会保障費の抑制に本格的に着手し、現在に至っています。

このような社会情勢下で高齢者はややもすると厄介者扱いされ、「多年にわたり社会の発展に寄与してきた者として敬愛され」（老人福祉法）るのではなく、「金喰い虫」などと呼ばれるようにさえなりました。

こんな異常な社会病理をとり除き、高齢者が主体的に自らの手で高齢期をつくり出そうと思いを一つにし、「より豊かな長寿社会を築き、長生きして良かったと実感できる輝く人生を全うしたい」（設立宣言）と、「ひとりぼっちにならない しない」「ねたきりにならない しない」を合い言葉に1996年3月全国5番目の高齢者協同組合（当時任意団体）として長野市で呱呱の声を上げました。そして「高齢者一人ひとりが力を出し合い、協同することにより、元気なうちは人と地域に喜ばれる仕事をし、人間らしく暮らせるように心の通い合う助け合いを広

げよう」（宣言）と創立の思いを高らかにうたいました。

日本ではこれまでにない形の協同組合です。組合員は当初130人でした。

創立は長野県非営利・協同の懇談会（当時の長野生協・長野県民生協・長野医療生協・長野県中高年雇用福祉事業団の4団体で構成）による研究・実践の成果を直接の契機として、また日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会による「高齢者協同組合構想」とも結び、更に若月俊一佐久総合病院総長（当時・故人）、半田孝淳天台宗大僧上（当時）、堀内巳次長野県農協中央会会長・全国農協中央会会長（当時）ほか県内の著名な方々82名の呼びかけで準備され、創立されました。初代理事長には若月俊一氏が就任しました。

その後の道のりの第一歩は

創立して12年目、生協法人となってまだ10年という日の浅い高齢者生協ですが組合員は全県下に約1900人、北信センター（長野）、中信センター（松本市）を中心に「福祉・生きがい・仕事」をモットーに多彩な活動・事業をすすめてきました。

まず着手したのがコミュニティケアを推進するための「ヘルパー（2級）養成講座」で、長野、松本、飯田、上田、須坂、伊那、中野など7会場で約1700人の修了者を送り出し、訪問介護や弁当宅配から活動を開始しました。続いて1997年「環境保全・資源リサイクル養鶏（3000羽）」を大岡村で立ち上げ、スーパーの残り野菜等を使い菌体飼料をつくり、それで飼育し、平飼いの有精卵「いのちの輝き」を銘



長野県高齢者生協
依田 発夫 理事長

1932年 望月町(現佐久市)生まれ。
厚生連の病院で地域保健・福祉活動に30年間従事した後
1991年 国民医療研究所 事務局長
2001年 長野大学社会福祉学部教授
2004年 長野県高齢者生活協同組合理事長就任

トップが語るわが生協

柄卵としてスーパーに卸す事業を、障害をもつ青年達と一緒に始めました。高齢者の仕事おこしとしてマスコミにも大変注目され、NHKはじめいくつかの報道機関により報道されました。しかしこの事業はやむなき事情により中断せざるをえませんでした。

以後私たちは「力のある人は力を」「知恵のある人は提案を」「お金のある人は資金を」出し合い、組合員の民主的「参加」をめざす活動・事業と東・北・中・南の各地域センター組織の確立に力を注ぎできました。

介護保険事業参入で生協法人に

介護・福祉の仕事が高齢協にとっては身近です。組合発足後間もなく「保健福祉システム研究会」を発足させ、介護保険を視野に入れた事業検討を行い、2000年から始まる介護保険を活用しようと1999年には法人格を取得しました。ここから高齢者生協となりました。

介護保険事業では訪問介護、居宅介護支援、通所介護等を長野と松本で行い、高齢者生協独自には福祉弁当の製造・配食事業（つくしの里）、生活総合支援事業、福祉相談業務、日本初の現物給付によるCC（コミュニティケア）福祉会の活動などを行っ

ています。私たちは県内で初めての「高齢者・障害者の暮らしを守る」という明確な目標を掲げた非営利団体の福祉生協として奮闘しているところです。高齢者だけでなく、誰もが安心して住める地域づくりをめざし、組織内での努力とあわせ、あるべき社会システム構築のために他組織とも連携し対外活動にも力をいれています。経営は困難の連続ですが、役職員全員が歯をくいしばり、力を合わせ何とか活動や事業が継続できる状況を維持しています。

創立の原点に立ち返って

高齢者が生き生きと社会参加していく場づくりは現在炭焼き倶楽部、東信おもしろ倶楽部、気功クラブなどが主体ですが、夕市の開催、冊子「私からの伝言」シリーズの発行、就労講座の開催などにもとりくんでいます。

現在組合の事業の主体である介護保険が「改定」されるたびにサービスの内実がやせ細っていくことは間違いなく、こんご高齢者が必要とするサービスを高齢者生協としてどのように届け、そして支え合っていったらよいのか、組合創立の原点に立ち返った計画づくりが急務となっています。

かがやきデイサービスセンター南長池：今日のおやつはお汁粉です。大勢で食べるとおいしさも増します。



第13回定例理事会を開催しました

日時 2月25日(月) 10:30~12:10

会場 メルパルク長野 4F月の間(長野市)

出席 理事10名(内1名は書面出席)、監事2名

議事 米原会長が挨拶を行って開会し、清水専務が議事進行を行いました。



1. 報告事項

「COOP手作り餃子中毒事故問題」に関して小松事務局長が県連の対応等を、清水専務(コープながの理事長)がコープながの等の対応の報告を行いました。また、当日配布の報告資料を確認したほか、事前資料として送付したこの間の理事会議事録など20項目について

文書報告として確認しました。

2. 協議・確認事項

(1) 2007年度長野県生協災害対策検討委員会「答申」

「災害対策の検討委員会(仮称)」の新規設置を含め、提案通り確認しました。

(2) 災害協定と国民保護計画の連動について

出された意見を踏まえて県と折衝することを確認しました。

(3) 第57回総会までの運営スケジュールについて

全期監査会日程を変更し、提案を確認しました。

(4) 創立60周年記念事業

式典等の日程を秋季として再提案することとし、企画等を基本確認しました。

(5) 第10次中期計画

日本の農業への関わり方などについて、さらに具体化することを確認しました。

(6) 県生協連2007年度まとめ第1次案・2008年度方針第1次案

中国産餃子中毒事故に関する報告を加筆し、「食の安全」を重点課題として検討することと、環境問題について日生協の環境キャンペーンと連動した取り組みを記述することとして確認しました。

(7) 定款・総会規約・役員選任規約の改定

提案通り確認しました。改定スケジュールに沿って進めます。

(8) 2008年度会費額決定の件

提案通り確認しました。

(9) 長野県食品衛生監視指導計画(案)に対する意見

提案通り確認しました。

(10) 信州循環型エコ農畜産物事業化促進研究会への参加について

提案どおり確認しました。

なお、第13回定例理事会に先立ち、2月15日(金)に第17回常任理事会を開催しました。

介護福祉交流会を開催しました(介護福祉部会)

介護福祉部会は2007年12月15日(土)、メルパルク長野(長野市)において「介護福祉交流会」を開催し、部会会員生協(全労済長野県本部・長野医療生協・東信医療生協・上伊那医療生協・長野県高齢者生協・コープながの)の現場で働く、デイサービススタッフやヘルパー、サービス提供責任者、ケアマネージャーなど30人が参加しました。

鈴木友子部会長(長野県高齢者生協専務理事)の開会挨拶に続き、ヘルスカウンセリング学会の吉田由加里氏が「メンタルヘルスケア～身体とこころの健康管理」と題して基調講演を行いました。その後、4グループに分かれてグループ討議を行い、討議内容の発表と質疑応答を行った後、懇親交流会を開催して日頃の悩みや職場の状況等情報交換を行い有意義な交流ができました。



接遇改善研修会を開催しました(医療部会)

医療部会は、12月16日(日)長野医療生協東館(長野市)において、2007年度接遇改善研修会を開催し、長野・東信・上伊那の3つの医療生協の役職員・組合員及び県連事務局の52名が参加しました。

高藤美和子部会長(長野医療生協専務理事)の挨拶で開会し、広島中央保健生協の藤井ノブ子看護部長が、「フィッシュで顧客満足度を高める!」というテーマで講演を行いました。参加者は、「フィッシュ(哲学)」を導入して生き活きとした職場に変わった慈恵医大病院や、情報を共有化するツールを使った広島中央保健生協の実践報告を聞き、医療や介護現場でのサービスの質の向上と、活気があり展望のある職場作りに役立つフィッシュの考え方について学ぶことができました。各生協の取り組み交流では「職場のいい話を集め共有化して元気な職場にしていきたい」「自分の働きの中からフィッシュしていきたい」等の感想も出され大変有意義な研修会となりました。



新春学習交流会を開催しました(大学部会)

大学部会では1月12日(土)、信州大学松本キャンパスにおいて新年学習交流会を開催し、信州大学・県短期大学・県看護大学・松本大学の各大学生協役職員と県生協連事務局をあわせた140名が参加しました。

第1部では信州大学経営大学院 樋口一清教授が「日本の消費者問題～企業不祥事の背景を考える」と題して講演を行いました。この間の食品偽装など、企業をめぐる不祥事の多発と行政の対応、企業の社会的責任、消費者の役割の重要性、長野県消費生活条例の制定への取り組みなどについて、わかりやすくお話いただきました。

続いて、信州大学の里山ボランティアサークル「洞楽村(どうらくむら)」のメンバーによる、生協食堂から出る生ごみを堆肥化して栽培を行い、取れた野菜を生協へ提供しサラダとして利用してもらうという、「循環型」エコロジー活動についての報告がありました。また、県内の6つの大学生協から、2007年の事業の取り組み内容・2008年の抱負等が報告されました。



第4回長野県生協災害対策検討委員会を開催しました

1月22日(火)、ホテル信濃路(長野市)において、第4回長野県生協災害対策検討委員会を開催しました。

この委員会は、県連理事会の諮問機関として、会員生協間の連絡網や連携、長野県との災害協定に関する見直しや協議の具体化などを検討するために設置したもので、今回の委員会で最終答申案を確認しました。

渡辺委員長(コープながの総務・人事部長)をはじめ、生活クラブ長野、長野医療生協、セイコーエプソン生協、全済済長野県本部の各生協から5人の委員と、県連より小松事務局長以下2名の事務局が出席しました。

この間に実施した県との打ち合わせ会議など4項目の報告事項について確認したほか、長野県との「災害時等における物資の調達等に関する協定書」の改定や、諮問項目に対する答申書の内容について協議・確認し、理事会へ諮ることとしました。



第2回医療部会を開催しました(医療部会)

1月28日(月)長野中央病院東館において第2回医療部会を開催し、高藤部会長、東信医療生協原専務、上伊那医療生協野口専務、県連から小松事務局長、田島事務局員が参加しました。事務局が、この間行われた県連主催賀詞交歓会などの報告や、第10次中期計画・県連60周年行事について説明した後、3月に予定する医療部会と介護・福祉部会の合同視察研修会の候補について話し合いました。

続いて、2007年度第2・第3四半期の経営状況について各生協から報告が行われ、厳しい環境下での事業の状況やデイケア施設の増設、グループホームの新設予定などの情報を交流しました。また、小松事務局長が生協法改正の要点について説明を行いました。



県外生協等への合同視察研修会を実施しました(食堂・売店部会)

食堂・売店部会では、2月12日(火)~2月13日(水)にかけて2007年度合同視察研修会を開催し、宮澤芳正部会長(セイコーエプソン生協専務理事)をはじめとするセイコーエプソン生協、信大生協、双葉生協、日本無線生協の役員と、県連事務局の計16名が参加しました。

12日には、慶応義塾大学湘南藤沢生協で、食堂施設のサンプルケースや厨房・ホール(サウスウィング)、購買施設ではサービスカウンターやレジ対応などを視察し、提





供アイテム数やパート対応など学校の立地環境に係わる工夫等を含めて質疑交流ができました。続いて訪れた相模原市職員生協では、売店の陳列方法やテナントについて見学を行い、POS導入やイントラネットによる新たな事業展開について説明をしてもらいました。

翌13日には、横浜港における輸入食品の蔵地場所（食品の野積み等）の見学を行ったほか、輸入食品に対する通関業務や検査の種類等、輸入加工品の内容について税関職員から説明をいただきました。

続いて移動した東京大学消費生協では、2006年10月にオープンした駒場コミュニケーションプラザ南館（食堂等）や書籍部・購買部を視察し、質疑の中でメニュー提案の内容や生協が建設設計段階から参加した先進的な施設コンセプト等について回答をもらうことができました。

第3回食堂・売店部会を開催しました(食堂・売店部会)

2月25日(月)、信大工学部・UFO-NAGANO(長野市)において第3回食堂・売店部会を開催し、宮澤部会長をはじめ4生協の役員と日生協中央第二支所駒津支所長スタッフ、県生協連事務局の10名が参加しました。

事務局がこの間の取り組みの経過報告を行い、今後の日生協商品取り扱いについて駒津氏が説明した後、2007年度の部会のまとめを確認しました。続いて2008年度の部会方針等について協議しました。例年、JA全農長野の協賛で開催している「きのこの日」や国の食育月間に合わせた取り組みなどについて意見交流を行いました。



その他報告

長野県主催：生協法改正に伴う 生協担当者会議が開催されました

長野県が主催する「生協法改正に伴う消費生活協同組合担当者会議」が、2月6日(水)長野県長野消費生活センター教室において開催され、生協関係者28名(会員生協22名、未加盟生協3名、県連事務局3名)が参加しました。県生活文化課青木課長補佐が挨拶を行い、同課消費者係内田主査が資料に沿って説明を行いました。法改正の趣旨・概要についての解説に続いて、2008年度の総(代)会での承認が必要となる定款変更について、厚生労働省が提示した模範定款例を使いながら主な変更点を説明されました。

また、生協会計基準の見直しについて話され、企業会計と同様の基準に準拠するようになること、経過措置期間があることなどを解説された後、事業区域と員外利用に対する規制緩和の内容について説明されました。

質疑では、代表理事の登記上の扱い、議事録の作成方法や議事録署名の現行定款と新定款での適用時期の違い等、具体的な質問が出されて内田主査が丁寧に応答しました。



県消団連が第6回、第7回幹事会を開催しました

1月23日(水)、長野県婦人会館において北條会長以下10名の出席により、第6回幹事会を開催しました。第5回幹事会以降の活動報告を小松事務局長が行い確認されたほか、「消費生活条例の制定に向けた取り組みについて」・「エコフィードの利用に向けての勉強会の開催と参加について」などの協議事項について論議を深めました。

また、2月19日(火)には第7回幹事会を長野県婦人会館で開催し、北條会長以下9名が出席しました。第6回幹事会以降の活動報告を小松事務局長が行って確認されたほか、継続して進めている消費生活条例に関する取り組みや、平成20年度長野県・長野市食品衛生監視指導計画案、BSE全頭検査継続問題に係わる団体署名の取り組みなどについて協議しました。



「長野県とのBSE全頭検査継続問題に係わる意見交換会」を開催しました

長野県消費者団体連絡協議会(北條舒正会長)は、1月23日(水)長野県婦人会館会議室(長野市)において県とのBSE全頭検査継続問題に係わる意見交換会を開催し、県からは衛生部の和田生活衛生課長と長岡乳肉・動物衛生係長が出席され、県生協連を含む県消団連側からは11名が参加しました。

この間のBSEの発生状況や食品安全委員会での検証内容、日本のBSE対策に関する報告が行われ、20ヶ月齢以下の牛のBSE全頭検査の暫定措置がこの7月で終了することと、その食品健康影響(リスク)に関する説明、県内の牛の検査頭数や費用、ピッシングが廃止されていること等の説明がありました。意見交流の中で、他県の検査の継続の有無についての質問が出され、23の都道府県が継続の方向、政令都市でも検査を継続するところがあることがわかりました。検査終了によるリスク問題では、消費者の理解が一定進んでいることとは別に、この間の情報提供の不足・検出限界や未解明なメカニズムに対する不安、県内の生産や流通を含めた「安心」に対する政策的な問題として、県の自主的なBSE全頭検査延長を求める要望が参加者から出されました。



Information

- | | |
|------------------------------------|------------------------------|
| 3月6日(木) 全国消団連・全体会議 | 4月8日(火) 中央地連・代議員会議 |
| 3月8日(土) 県労福協・くらしなんでも相談ほっとダイヤル | 4月10日(木) 第19回常任理事会、第15回定例理事会 |
| 3月10日(月) 第18回常任理事会 | 4月17日(木) 県連全期監査 |
| 3月13日(木)~14日(金) 医療部会・介護福祉部会合同視察研修会 | 4月18日(金) 中央地連・都県連責任者会議 |
| 3月14日(金) 中央地連・第3回都県連事務局会議 | 4月23日(水) 第5回消費生活条例(仮称)検討委員会 |
| 3月18日(火) 第4回福祉・助け合い推進フォーラム | 4月24日(木) 県労福協・理事会 |
| 3月24日(月) 第14回定例理事会 | 4月25日(金) 第16回定例理事会 |
| 3月25日(火) 第4回消費生活条例(仮称)検討委員会 | |

会報 **ねっとわあく** 195

発行：長野県生活協同組合連合会 〒380 0921 長野市栗田950 6 メゾン栗田102

TEL 026 224 3161 FAX 026 224 3162

ホームページ <http://nagano-seikyoren.org/index.php>